

一生に一度の天文現象



そらんぽ四日市
ホームページ

一生に一度の天文現象が、来月11月8日(火)に起きます。それは、皆既月食中の天王星食です。

月食とは、地球の影の中に月が入り、月が暗くなったり欠けて見えたりする現象のこと。天王星食とは、惑星食の一種で、天王星の前を月が横切り、天王星が月に隠されて見えなくなる現象のこと。これらは単体では数年に一度という頻度で起きており、さほど珍しくありません。しかし、前回日本で皆既月食と惑星食の二つが同時に起きたのは、442年前。また次回は322年後と、とても貴重な機会であることが分かります。

こんな珍しい現象ですが、残念ながら天王星は肉眼で見ることが難しく、望遠鏡での観測が必須です。そこで、ぜひ博物館主催の「スターウォッチング」にお越しください。多くの人と一緒に天王星食の瞬間を目撃するため、望遠鏡の映像をスクリーンに映したり、皆既月食中の月がなぜ赤くなるのか、実験装置を用いて解説を行ったりと、一生に一度の天文現象を楽しむための仕掛けを準備しています。世紀の瞬間を、多くの人と共有してみませんか。

皆既月食と天王星食観望会

時 11月8日(火)
18:30~21:00
所 伊坂ダムサイクルパーク
※きらら号は出動しません



©国立天文台

☎ 博物館・プラネタリウム (TEL) 355-2700 (FAX) 355-2704

旧富洲原町上水道大矢知水源地(濾過機器)

大矢知地区に現存する2基の濾過機器を知っていますか。

「四日市市水道五十年史」には、上水道設置の経緯について次のように書かれています。

大正6年に東洋紡績富田工場が完成し、人口が急増したため、下水道工事に着手し始めました。同時に上水道(濾過機器)の設置を望む声が住民から高まったため、大正13年に「皇太子殿下御成婚記念事業」として設置が決まりました。その際、当時富洲原町で議員を務めていた平田佐次郎・伊藤平治郎らの3万円(現在の1,800万円相当)の資金援助が後押しとなりました。

下水道は昭和2年に竣工、そして上水道は昭和4年に竣工しました。

この上水道の濾過機器は、一昼夜に1,878.5m³の水を濾過し、水中の鉄分・無水炭酸の処理やアンモニアを除くことができる、当時としては新鋭機であったとされています。

この2基の濾過機器は、90年以上もの年月が経っていますが、創設当時の姿をよく残しており、水道事業における歴史的価値のあるものとなっています。



現存する2基の濾過機器

☎ 文化課 (TEL) 354-8238 (FAX) 354-4873